

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立楠見東小学校
校長氏名	水本晃史
作成日	令和3年2月18日

1 教育目標

正しい人権意識を持ち、豊かな知性と情操を身につけ、健康で自主性に富み、みんなと協力して力強く生きぬく子を育てる。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○全国学テ結果 ○県学習到達度調査 ○授業アンケート	○学校アンケート ○いじめアンケート	○スポーツテスト ○生活調べ	○学校アンケート ○学校運営協議会
重点目標 【P】	◎国語科を研究の窓口とし、言語活動の向上を図る。 ○自ら学び伸びていこうとする力を育てる。	◎相手の気持ちを理解でき、思いやりのある心を持てるようにする。 ○正しいと思うことに進んで取り組み、最後まで粘り強くやり抜く力を育てる。	◎体力向上の推進。 ◎基本的生活習慣の確立。 ○生命・安全の確保と守る力の習得。	◎学校からの情報発信を工夫し、連携が深められるようにする。 ◎コミュニティスクールとして地域や保護者の願いを学校運営に積極的に取り入れる。
取組の状況 【D】	○「東タイム」で、基礎学力向上に取り組み、「チャレンジタイム」で授業内容の定着を進めている。 ○授業力向上のため、校内研究授業を充実させ、活発な協議を行い授業改善を進めている。 ○「家庭学習の手引き」を配布し、家庭の協力を得ながら家庭学習の充実を図っている。	○様々な体験活動を実施して豊かな心を養う場を設けている。 ○様々な集会活動を通じ、異年齢交流を進め児童の豊かな心を養う。 本年度はコロナ禍のため、実施できませんでした。	○本年度「スポーツテスト」はなかった。ただ、本校は昨年度より握力やシャトルランに課題があり、意識した取り組みを行った。 ○休憩時間にみんな遊び等、教師も一緒に体を動かす機会をもった。 ○避難訓練や交通安全教室を計画的に実施して安全への学習を深める。	○地域への学校だよりの発行を通じ、積極的な情報発信に努めている。また、各教科や総合的な学習の時間、子どもセンター事業等に積極的に学校外の人材を活用する。 ○民生児童委員との懇談会をもち情報交換を図り生活指導の充実を図る。 ○地域と共催できる行事を積極的に活用する。また、教職員も積極的に参加できる場を設け、開かれた学校になるように努める。
(評価結果 【C】)	○「東タイム」「チャレンジタイム」の実施が定着し、各種調査の向上に繋がった。 ○授業改善に取り組んだ結果、授業アンケートから授業内容が効果的に伝わることに繋がっている。 ○「学力テスト」は年度により厳しい結果になることがある。	○「介護老人施設訪問」などの体験学習や児童会活動や集会活動などの異年齢交流は相手の気持ちをよく考えるなど、効果的な活動だが、本年度は実施できなかった。	○「不審者」、「火災」、「地震・津波」それぞれの避難訓練を実施して具体的に身を守ることを重点に学習した。 ○様々な場所、様々な時間帯において安全な生活が送れるための学習の機会を持てるよう工夫する必要がある。	○「学校だより」を地域の回覧板を通じ配布し、情報発信に努めた。 ○民生児童委員との懇談会をもち貴重な情報交換の場となった。 ○「防災訓練」や「人権講演会」、「子ども会行事」に積極的に参加し地域との交流を深めることができた。 ○「こどもセンター」や「食育」、「読み聞かせ」などに地域の方々の協力を得た。
改善方法 【A】	○「東タイム」「チャレンジタイム」を継続し、さらに内容の充実を図る。 ○教師の授業力を向上させるため校内研究体制を充実する。 ○「学力テスト」の結果の分析を綿密に行い、課題を明確にする。	○さらに多くの体験学習を実施して児童の豊かな心を醸成する。 ○児童会活動や集会活動で異年齢の縦割り活動を充実さす。 ○地域に根ざした体験活動を考えたい。	○訓練を様々な場所、様々な時間帯において安全が確保できるように、工夫して実施する。	○「学校だより」の配布を続ける。 ○民生児童委員との懇談会を継続する。 ○多くの地域行事に積極的に参加する。 ○さらに多くの地域の方々の協力を得る機会を増やす。

3 その他の課題

・学校は楽しい学習の場として、また、どの子にも心地よい居場所として、学校には何が必要なのか、人的・物的に限りがある中でできる限り実現できるよう努めていきたいと考えます。そのために地域や関係諸機関と連携を図り、時には積極的に協力を得ることも重要と考えます。今後もさらに開かれた学校になり、多くの方々の力を結集して学校教育の充実を図りたいと考えます。